

埼玉アーツシアター通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.80

2019.4-5

柳楽優弥

めにみえない みみにしたい

松竹大歌舞伎

デイミトリス・パイオアヌー

萩原麻未





Tribute to 蜷川幸雄

7

寺島しのぶ

蜷川さんの覚悟に
拮抗して舞台に立つ



てらじま・しのぶ

蜷川幸雄、栗山民也、宮田慶子、松尾スズキなど多くの演出家の舞台で活躍する女優。映像での活躍もめざましく、映画「赤目四十八瀧心中未遂事件」、「ヴァイブラータ」で国内外の主演女優賞多数受賞。「キャタピラー」で世界三大映画祭の一つベルリン国際映画祭最優秀女優賞（銀熊賞）受賞。「オー・ルーシー!」でインディペンデント・スピリット賞主演女優賞にノミネートされた。

©撮影/資人専 (Vale.)

取材・文 ●

上野紀子（演劇ライター）

『近松心中物語』や『グリークス』など、蜷川演出7作品を経験した寺島しのぶさんは、紛れもなく巨匠の信頼を得たミューズの一人である。初めての出会いは第1作目の『血の婚礼』にて。厳しい、怖いと周囲から散々聞かされた通り、稽古場で降ってきたのは“世界の蜷川”による容赦ない言葉の鉄拳。その記憶を苦笑いで振り返った。

「私は、病的に怒られた最後の女優だと思います（笑）。ま、怒りやすかったんじゃないですかね。言われてシュンとなっちゃうようなタイプじゃないし、こっちもコノヤロー！と思ってやっていました。『血の婚礼』でカーテンコールに立った時に、あっ、こういう世界って楽しい！と初めて思ったんです。だからやっぱり恩師なのか、親子みたいな感覚もあって……不思議な関係でしたね」

気骨ある女優の出現は、巨匠を発奮させたに違いない。その後は、作品を重ねるごとに稽古場も穏やかになっていったかと思いきや……。

「まだあった！『欲望という名の電車』でもボコボコにされた！『お前の芝居はイライラするんだよ！』って、目の前で胃薬を飲みながら私の芝居を観ていましたよ。今、『海辺のカフカ』で一緒に岡本健一君もボコボコにされたって仰ってました。健一君の時は高血圧の薬だったって（笑）。でも結果として、そんな経験をした人間が評価されるのかな、と。健一君も『タイタス・アンドロニカス』で読売演劇大

賞の優秀男優賞を受賞したし、私も『欲望〜』で紀伊國屋演劇賞をいただきましたから」

『血は立ったまま眠っている』では、「これが蜷川さんとの最後の舞台かな」と予感した。同時期にベルリン国際映画祭の最優秀女優賞を獲得した寺島さんに、蜷川さんは「世界的な女優になったし、もういいな」と声をかけたそうだ。「お互いに、これが最後と思っていたのかもしれないね」

だが、8作目の機会は巡ってきた。『海辺のカフカ』再々演は2月、寺島さんに縁の深いフランスの地で始まり、5月に東京で凱旋公演が行われる。

「その作品世界にいることに説得力を持たせるには、それなりのパッションが必要。蜷川さんに教えていただいた一番のことですよ。『海辺のカフカ』も、セットや演出に蜷川さんのパワーが満ち溢れているわけです。その熱に流されちゃう役者ではダメ。セットに込められた『俺はこれでいく!』という蜷川さんの覚悟に拮抗しないといけない。もうセット自体が蜷川さんだから。亡くなっちゃっても居続けるんだね！って、日々感じながら稽古しています」

受けた球は打ち返す。頼もしきミューズの変わらぬ姿を、演出家も嬉々と見届けることだろう。

「『しのぶ、今回冴えてるじゃん!』なんて言ってくれたらいいなと思います（笑）」



『血の婚礼』（銀座セゾン劇場 1993年） Photo◎谷古宇正彦 提供◎（公財）セゾン文化財団



『めにみえない みみにしたい』

2018年初演より Photo◎宮川舞子

CONTENTS

4 PLAY > 『CITY』

6 PLAY > 『めにみえない みみにしたい』

7 KABUKI > 『松竹大歌舞伎』

8 PLAY > さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3
『朝のライラック』[ヨルダン／パレスチナ]

10 DANCE > 『MEET THE DANCE
～アーティストが学校にやってくる!』

12 DANCE > コンドルズ 埼玉公演2019新作『Like a Virgin』

14 DANCE > ディミトリス・ババリオヌー
『THE GREAT TAMER』

16 MUSIC > ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.8

萩原麻未 ピアノ・リサイタル

18 EVENT > 彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾
『ヘンリー五世』関連イベントレポート

19 REVIEW

20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ

23 INFORMATION

24 COLUMN > 林家彦いちのゝ一歩外へ。

編集◎川添史子、榎原律子 表紙画◎波多野光 デザイン◎GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Apr. 2019 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2019年3月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

——まずは藤田作品の印象から伺えますでしょうか？

映画『ディストラクション・ベイビーズ』で共演した村上虹郎さんが出演されていた『書を捨てよ町へ出よう』が、初めて観た藤田さんの作品でした。第一印象は、“今まで観たことがない舞台”。そのあと『ロミオとジュリエット』、『BOAT』も拝見しましたが、圧倒的な独自のスタイルを持つ演出家さんだと思いました。劇中に掛かる音楽のセレクトが全部ドンビシャで好きでしたし、低音で響く感じとか、音響へのこだわりも伝わってきましたね。とにかく、演

技、音楽、衣裳、さまざまな要素をまとめて上げるバランス感覚が素晴らしいと感じました。

——新作『CITY』のモチーフは「ヒーロー」。現代の都市を舞台に、「正義とは？」「悪とは？」が浮かび上がる異色作となりそうです。

ヒーローものをやるっていう発想自体が面白くて、直感ですぐ「やりたい」と思いました。藤田さんが主宰するマームとジブシーは女性が主軸となった作品のイメージがありましたが、今回は男性キャストがメイン。今までとはかなりテイストが違うも

のになるんじゃないでしょうか。そういった新しい挑戦に呼んでいただけるのが嬉しいです。藤田さんとは、「一緒にマーベルのヒーロー映画を観よう」なんて話をしてます(笑)。

——お好きなヒーロー映画はありますか？『スパイダーマン』！ 普通の青年がヒーローになるところに夢があるじゃないですか。

——今回、作品が上演される彩の国さいたま芸術劇場は、初舞台である『海辺のカフカ』が初演された劇場ですね。蜷川さんのことなど思い出されるのでは？

稽古場も同じですし、稽古が始まったら、あの緊張と恐怖の日々を思い出すでしょうね……本読み初日から蜷川さんに「声が小さくて気持ち悪い」って言われましたから(笑)。でも本番1日目の幕が下りた時、「華々しい初日だよ」と声をかけていただいたのは、ものすごく嬉しかったです。実は「蜷川さんが、またいつか柳楽を使いたい」とおっしゃっていたと、藤田さんから聞いたんです。驚きましたし、これにはグッときました。今回、蜷川さんが才能を認めた藤田さんに呼んでいただいたことに縁を感じましたし、初舞台よりも数

段成長した形で、埼玉の舞台に立ちたいと思っています。

——今回はこれまで参加された舞台よりも、ぐっと年齢の近い方たちとのクリエイションになりますね。

今まで経験した舞台の現場は、先輩たちに囲まれた“学ぶ場”という意味合いが強かった気がします。今回は同年代の演出家ですから、変に背伸びせず、自然体で接しながらいろいろな事柄をキャッチしてみたい。もちろん舞台は怖いし緊張するんですけど、蜷川さんに厳しくしていただいたおかげで自分も多少の自信を持って立ち向かえるような気がしていますし。共演するキャストの皆様も素晴らしいですし、正直、現時点では楽しめしか(笑)。たくさんさんの刺激を受けそうな気がして、今からワクワクしています。

柳楽優弥

Yuya Yagira

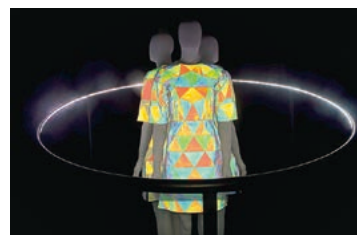
2004年に映画『誰も知らない』で映画デビュー。第57回カンヌ国際映画祭最優秀男優賞を史上最年少で受賞するなど、国内外で高い評価を得る。2012年『海辺のカフカ』で初舞台。2016年映画『ディストラクション・ベイビーズ』で第38回ヨコハマ映画祭主演男優賞、第90回キネマ旬報ベスト・テン主演男優賞を受賞。主な出演作にドラマ『アオイホノオ』『ゆとりですがなにか』など。6月『ザ・ファブル』、『泣くな赤鬼』の2本の出演映画が公開予定。

気鋭の若手が勢ぞろい！

柳楽に加え、ドラマ・映画で活躍する井之脇海、『BOAT』に続き藤田作品には二度目の参加となる宮沢氷魚、藤田作品には欠かせない女優・青柳いづみといった話題の若手が勢ぞろい。さいたまネクスト・シアターの内田健司も加わり、若手俳優たちの競演に期待したい。

衣裳に注目！

パリコレなどでも活躍するファッションデザイナー、森永邦彦（アンリアレイジ）が、初めて舞台衣裳を手掛けるのも話題の一つ。光を当てると色が浮かび上がるドラマチックな服など、斬新な発想と技術力を組み合わせた注目のアーカイブ（旧作）を提供している。



ANREALAGE EXHIBITION "A LIGHT UN LIGHT"

都市に現れる、現代のヒーロー『CITY』

晩年の蜷川幸雄が新作の執筆を依頼するなど、多くの観客やクリエイターを魅了している劇作家・演出家、藤田貴大。

彼が待望の新作で描くのは、都市を舞台にした「ヒーロー」の物語だ。

主演を務めるのは、蜷川演出『海辺のカフカ』初演で瑞々しい演技を見せた柳楽優弥。久々に埼玉の舞台に立つ思いとは。

柳楽優弥 Interview

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 井上佐由紀



STORY

舞台は現代の都市。事故で死んだ妹（青柳いづみ）の死を不審に思った兄（柳楽優弥）は、孤児としてもに育った青年（宮沢氷魚）の助力を得ながら、妹の死の真相を追っていた。猟奇的な連続殺人犯（内田健司）など、都市の暗部に否応なく触れることになった兄は、いつしか町を守る存在として悪と対峙するようになって行く。やがて妹の死から端を発した出来事が都市を脅かす一大事件へと発展するころ、兄は事件の背後にいるひとりの男（井之脇海）に辿り着く……。

チケット販売中

『CITY』

5.18(土)～26(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作・演出] 藤田貴大

[出演] 柳楽優弥、井之脇海、宮沢氷魚、青柳いづみ

菊池明明、佐々木美奈、石井亮介、尾野島慎太郎、辻本達也、中島広隆、波佐谷 聡、船津健太、山本直寛
内田健司(さいたまネクスト・シアター)、横木淳平(さいたまネクスト・シアター)

チケット(税込) 一般 S席5,500円 A席4,500円

U-25*(A席対象)3,000円／メンバーズ S席5,000円 A席4,000円

※演出の都合上、照明が明滅する場面がございます。あらかじめご了承ください。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

	5.18	19	20	21	22	23	24	25	26
	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00					●	●	●	●	●
15:00		●	●						
18:30	●							●	
19:30						●			

注目の若手・藤田貴大が書き下ろした、子どもから大人まで楽しめる演劇『めにみえない みみにしたい』が、今年、早くも再演を迎える。アクティングエリアの目の前、人工芝が敷き詰められた席に座れば絵本のような物語の中に入っていくよう……。多様な手法で子どもたちの想像力を刺激する作品は、大人も楽しめる上質な演劇として高い評価を得た。出演はマームとジブシー公演に数多く参加する、伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子の4人。主人公のおんなのこ、母親、狩人、森の動物や妖精たちまで、多彩な登場人物たちを4人で次々と演じ分けていく。

音楽には原田郁子（クラムボン）、衣裳にはマームとジブシーではおなじみのsuzuki takayukiが参加。ふしぎな森の出来事を彩る音楽、布の風合いを生かした優しい服が、おとぎ話のような世界を支えていく。斬新な感触を持つステージに、家族で足を運びたい。

好評につき14会場を巡る全国ツアー決定！

めにみえない みみにしたい

文●川添史子 宣伝美術●名久井直子 イラスト●ヒグチユウコ Photo●井上佐由紀



STORY

おねしょに悩むおんなのこは、飼い猫のにやあにゃちゃんから聞いた古い言い伝えを叶えるため、夜の森へ。おかあさんも子どものころに出かけた森には、たくさんの動物たちや不思議な生き物、妖精たちが住んでいる。森で出会った狩人に案内されて森の奥へ進むおんなのこ。やがて辿りついた古いおうち。となりの森と戦争が始まろうとする中、おんなのこが古いおうちで見たのは……。

公演アンケートより

- 子ども向け作品でしたが、演出がこらされていて大人でもとても楽しめました。展開も色々あり、ラストでは涙してしまいました。(50代)
- 会場全体が一体となって物語をつくっていたような感じがすてきでした。(50代女性)
- 演劇を生でみたのは初めてでした。体ひとつで表現し、音楽や照明もすごく素敵で、心から感動しました。何気なく生きている毎日がとても大切に思えました。(30代女性)
- おもしろかった。けど、さいごの方なみだが出ました。(8歳女子)
- 小さいころに漠然と感じていた怖さや不安を思い出し、なつかしい気持ちになりました。(中略)私も温かい家庭がもてるようになってほしいと思います。(10代女子)
- まさか子どもたちを産んだ日のことを思い出させられるとは思いませんでした。泣きそうでした。(30代女性)
- しゃべん玉とキラキラのかみのところがおもしろかった。(8歳男子)
- さいしょからさいごまで、かなしかったり、おもしろかったし、はじめてのげきだったので、とても楽しかったです。(10歳女子)

チケット発売日 一般 5.18(土) メンバーズ 5.11(土)

『めにみえない みみにしたい』

7.13(土)～15(月・祝)

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[作・演出] 藤田貴大

[出演] 伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

チケット(税込) 全席自由

大人(19歳以上) 2,000円 子ども(2歳以上) 1,000円

※推奨年齢4歳以上。

※開場は開演の20分前。 ※上演時間は約55分(休憩なし)。

※2歳未満の膝上鑑賞は無料(保護者1名につき、おさま1名まで)

7.13 14 15
土 日 月・祝
11:30 ● ● ●
15:00 ● ● ●

豪華出演者による傑作歌舞伎

2019年度公文協東コース

松竹大歌舞伎

松本幸四郎改め二代目松本白 鵲 襲名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎

文●川添史子



今年の「松竹大歌舞伎」は昨年話題となった、幸四郎改め二代目松本白鵲、染五郎改め十代目松本幸四郎の襲名披露公演に決定。襲名を経てますます存在感を増す俳優たちが熊谷にやってくる。円熟した芸を見せる白鵲は、父祖以来の当たり役を次々と演じて芸の真髄を見せつけ、次代を担うリーダーとして活躍する幸四郎は、古典から新作まで多彩な演目で活躍中。そんな二人を中心とした豪華な座組に市川猿之助も参加することに！お祝いの舞台に華を添え、大充実の公演となりそうだ。

双蝶々曲輪日記『引窓』の舞台は八幡の里。町人の南与兵衛(幸四郎)は役人に取り立てられて張り切っている。初仕事は大坂で人を殺した濡髪長五郎(白鵲)の捕縛。しかし濡髪は、与兵衛の義母が生んだ実の息子で……。実子と義理の息子の間で苦しみお幸と、その気持ちを察する二人の息子、そして与兵衛の女房お早。月明かりの差し込む引窓を巧みに使いながら、お互いを気遣う人々の苦悩と情愛を描いた情緒溢れる義太夫狂言の名作、義理と人情が交錯する一幕に胸に迫るドラマを堪能したい。

色彩間刈豆『かさね』は、男女の愛、嫉妬、恨みが描かれた幻想風の舞踊劇。浪人の与右衛門(幸四郎)と、腰元のかさね(猿之助)は、道ならぬ恋の果てに心中することに。木下川の堤に流れてきた髑髏に刺さった鎌で与右衛門が引き抜くと、美しいかさねの顔が、見るも恐ろしい形相に変容。これは、

与右衛門が行った悪事の因果だった。恨みが乗り移って醜くなったかさねを、思わず与右衛門は惨殺し……。色模様から壮絶な殺し場までドラマチックな演目だ。

心温まる物語、夏にぴったりの怪談に合わせて、袴姿の俳優が舞台に並ぶ襲名披露『口上』もお楽しみに。



チケット発売日 一般 5.18(土) メンバーズ 5.17(金)

2019年度公文協東コース

松竹大歌舞伎

松本幸四郎改め二代目松本白 鵲 襲名披露

市川染五郎改め十代目松本幸四郎 襲名披露

7.18(木) 13:30 ※1回公演

熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール

[演目] 襲名披露『口上』、双蝶々曲輪日記『引窓』、色彩間刈豆『かさね』

[出演] 松本白鵲、松本幸四郎、

市川猿之助、市川高麗蔵、大谷廣太郎、松本錦吾 ほか

チケット(税込) 一般 S席8,000円 A席5,500円 B席4,000円

U-25*(A席対象)1,450円

メンバーズ S席7,200円 A席5,000円

※枚数制限あり。一般・メンバーズとも発売初日に限り1回の申込につきお一人様4枚まで。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3 『朝のライラック』^{〔ヨルダン／パレスチナ〕}

同時代の人間が発する生の叫び

昨年始まったシリーズ「世界最前線の演劇」最新作は、
イスラーム国支配下のとある町で、新郎新婦の衣裳に身を包んだ若い夫婦が
服毒自殺した実話から着想された『朝のライラック』に決定！
翻訳の渡辺真帆氏にその気になる内容、背景を解説してもらおう。

文 ● 渡辺真帆（『朝のライラック』翻訳）

STORY

舞台は武装組織ダーイシュの支配下にある架空の町、テル・カマフ。この町に住む夫婦、ドゥハー（「朝」の意）とライラクはともに芸術教師をしているが、ふたりはイスラム教徒とキリスト教徒の異教徒同士であることを理由に、美しいライラクを手に入れようとする軍司令官のアブー・バラと町の長老バルダーウィーそれぞれから非情な選択を迫られる。ふたりの見張りを命じられたのは戦闘員となった教え子のフムード。ダーイシュによって家族を奪われ戦闘に加わるフムードの姿に絶望を隠せないドゥハーとライラク。しだいにふたりは追い詰められていく。2016年に未来の子供たちの幸せな日々を願って書かれ、ヨルダン文化省創造賞を受賞した本作は、2017年12月国際演劇協会日本センターによりリーディングで紹介された。

渡辺真帆

Maho Watanabe

埼玉県生まれ。小学校時代をカタールで過ごし、東京外国語大学にてアラビア語と中東政治を専攻。2013年夏から1年間パレスチナ（ヨルダン川西岸地区）・ビールゼイト大学に留学。現地で日本・パレスチナ共作の演劇作品に通訳で参加し、舞台芸術に関わるようになる。通訳・翻訳者としてドキュメンタリー、芸術文化など多分野で活動後、現在は国際協力NGO日本国際ボランティアセンター（JVC）にてパレスチナ事業を担当。

パレスチナ人の若者がナイフ一本を手
にイスラエル兵を攻撃しようとし、その場
で射殺される事件が2015年秋以降頻発
した。多くは抵抗組織に属さない単独の行
動で、イスラエル軍の行動様式を考えれば
自殺行為に他ならない。しかし、本人たち
の動機が何であれ、彼らは大義のために命
をささげた殉死者としてメディアや政治勢
力に称えられる。イスラームの教義におい
て、「自殺」は決して冒してはならない禁忌
である一方、「殉教」は天国行きが保証され
る望ましい死に方とされる。占領下に生ま
れ、構造的な差別と暴力にさらされ続け、
将来への希望が持てない小さき人間にとっ
て、社会的に認められる名誉ある死も、そ
の後に保証される天国も、あこがれの対象
として十分なリアリティを持ちうる。

『朝のライラック』作者ガンナーム・ガン
ナーム氏は1955年にパレスチナ東部の
ジェリコに生まれ、難民としてヨルダンで
育った。俳優、演出家、劇作だけでなく短
編小説も著す文学者で、パレスチナ解放を
主題に作品を生み続け1972年に暗殺され
た小説家・ジャーナリストのガッサーン・
カナファアーニーを慕い、パレスチナ人とし

て文学や芸術による抵抗が続けてきた。そ
の氏が本作で扱うのはダーイシュあるいは
「イスラーム国」組織という現象だ。

2015年9月。シリアやイラクでは政府
軍や外国軍による空爆、イスラーム国を含
む武装組織による軍事行動、拷問、処刑等
による犠牲者が増え続けていた。死と暴力
を伝える情報が氾濫する中、あるニュース
がパレスチナ出身の演劇家ガンナーム・ガ
ンナーム氏の目に留まった。ダーイシュ支
配下のとある町で、新郎新婦の衣裳を着た
若い夫婦が服毒自殺したという。この「小
さな」悲劇に衝撃を受け「書かずにはいら
れなかった」と言うガンナーム氏。翌年
書き上げた『朝のライラック』に、「ダーイ
シュ時代における死について」という副題
を付けた。

芸術家としての意欲的な応答

ダーイシュは「イスラーム国」を名乗る
組織の他称で、「イラク・シャームのイス
ラーム国 (al-Dawla l-Islamiya fi l-Iraq wa
sh-Sham)」のアラビア語の頭文字をとっ
た、否定的な響きを持つ蔑称だ。教義を字
義通り解釈する厳格さのみならず、アル＝
カーイダに代表される従来のイスラーム過

激派をしのぐ残虐性、ミュージックビデオ
のような宣伝映像を駆使し世界中から戦闘
員を募集する先進性と国際性、行政機構を
もち石油の密輸などで収入を得る組織力な
どで世界を震撼させた。

イスラーム教スンナ派組織であるダーイ
シュの最大の犠牲者は言うまでもなく支
配地域の住民であり、彼らが「背教者」や
「不信仰者」と断ずるシーア派ムスリム、キ
リスト教徒、少数民族のヤズディ教徒のみ
ならず、多数のスンナ派ムスリムが含まれ
る。その逸脱した残忍さに欧米メディアの
注目が集まるほど、歪められたイスラーム
像に世界中のムスリムは憤りを深めた。現
地では政府による弾圧に加え、外部から介
入するさまざまな利害関係が混乱と暴力を
増幅させる中、ダーイシュの恐怖支配下で
暮らす当の住民たちの声は、届かないまま
であった。

これはある若い夫婦の心中をきっかけ



世界最前線の演劇

現在の変わりゆく国際情勢の中、世界では諸問題
を抱える地域の現状を背景にした戯曲が多数生み
出されている。そんな作品を若手演劇集団「さいた
まネクスト・シアター」が上演。ニュースでは届けら
れない人々の姿を舞台上に映し出す。これまでの作
品は『ジハード-Djihad-』、『第三世代』。



世界最前線の演劇1『ジハード-Djihad-』 Photo©宮川舞子



世界最前線の演劇2『第三世代』 Photo©宮川舞子

に、声を持たない人々の叫びをガンナーム
氏が込めた作品である。ドキュメンタリー
ではなく、創作によってダーイシュ戦闘員
や支配下の市井の生活を描き、寄り添う。
そればかりでなく、ダーイシュ以前からア
ラブ社会が内包する後進性、長老など地元
の指導者に従うだけの伝統主義や無批判
な信仰の姿勢を突き、「生が死ぬ」時代を許
した社会的要因を「善良な」市民にも問う、
芸術家としての意欲的な応答といえる。

ガンナーム氏が2017年国際演劇協会
日本センターによるリーディング上演に寄
せたメッセージの中で「シオニスト・イス
ラエルによるパレスチナの占領はきわめて
残虐です。私の目には、ダーイシュとイス
ラエルが表裏一体に映ります」と書いたの
は、本作が70年にわたり声を奪われ続け
るパレスチナ人の切実な叫びでもあるから
だろう。

同時代の人間が発する生の叫びが、一人
でも多くの人に届くことを願っている。

チケット発売日 一般 4,27(土) メンバーズ 4,20(土)

さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3
『朝のライラック』〔ヨルダン／パレスチナ〕

7.18(木)～28(日)
彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO

〔作〕ガンナーム・ガンナーム 〔翻訳〕渡辺真帆

〔演出〕眞鍋卓嗣

〔出演〕豎山隼太 手打隆盛 堀 源起 松田慎也
茂手木桜子 中西 晶 鈴木真之介 / 占部房子

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)

一般 3,000円 U-25* 2,000円 メンバーズ 2,700円

	7.18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00	●	●	●	●	休	●	●	●	●	●	●
19:00	●				演				●		

※日本語上演

※開場は開演の20分前です。

※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。

開場時間を過ぎますと整理番号は無効になります。

※特設劇場での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明
書をご提示ください。

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、埼玉県内の小・中学校に、芸術を身近に感じてもらうための、さまざまな活動を企画している。その取り組みの一つとして、県内の中学校を訪問して子どもたちにダンス体験の機会を届けるアウトリーチ「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」を今年度も実施。これは、プロのダンサーや振付家を中学校に派遣し、身体を使って表現する楽しさや多様性、コミュニケーションが生み出す豊かな可能性を体験してもらう企画。2018年度は、ダンサー・振付家として活躍する北村明子、そして藤田善宏を迎え、埼玉県内の中学校4校でプログラムを実施した。

2月初旬、行田市立南河原中学校で開催された藤田氏による授業の最終日を見学。この日、行われた発表会を見せてもらった。笑顔で踊る生徒たちからは、創造力や発想力を養いながら、普段の授業とはまた違う事柄を学んだ様子が伝わってきた。

計6日8時間でダンス授業を受けてきた彼ら。「彫刻になってみよう」「メトロノームみたいになってみよう」といった、お題の通りに“遊ぶように”動いてみるウォーミングアップの授業を経て、1組6から7人のグループに分かれて、それぞれ創作を行ってきた。この日の授業冒頭は、発表会を前にした最後のブラッシュアップ。あるグループを見ていると、即興でくると

回った女生徒の動きを見て、藤田氏が「それをどこかに取り入れてみよう」と提案、そこで新しい場面が生まれる瞬間も。「イイ！これはどのグループとも違って！」という一言に生徒たちは嬉しそう。「踊るのが恥ずかしい」という気持ちが芽生えてくる年代だけに、戸惑ったり、はにかんだりする生徒もちらほらいるが、ちょっと勇気を出して動いた時をしっかりと見てあげて、「いいね」「面白い！」と声をかけていくと、どんどん動きが大きく変化していく。無理強いせず、じっくり待ってあげるスタンスだったようで、内気な子もやりやすかったに違いない。

いよいよ発表会！

練習が終わり、次は全体の動きの確認。音楽が流れ始めると全員が元よく動き始め、10代の若者らしい躍動感が生まれてきた。藤田氏の提案で急遽、それぞれの部活のムーブ（野球、卓球、サッカー、バレーボールなど）を取り入れたオープニングダンスが冒頭に挿入されたが、普段やっている動きでイメージしやすかったのか、すぐに上手に動いていて驚いた。イスを使ったフォーメーション、グループごとの移動な



藤田善宏（振付家・ダンサー）
Yoshihiro Fujita

福井県出身。1996年立ち上げの男性だけのダンスカンパニー“コンドルズ”設立メンバー。MV、CM、舞台作品等の振演出演多数。2014年、自身の個人プロデュースユニット“CAT-A-TAC（キャットアタック）”設立。以来、毎年新作を発表。2017年ニヴァンテ『ライトな兄弟』（作・演出・振付・出演）で、平成29年度（第72回）文化庁芸術祭・舞踊部門新人賞受賞。「からだを使った遊び」を通して、健全な心と身体を育む活動に取り組み、世代を超えたコミュニケーション・ツールとなり得る事を目指している。福井しあわせ元気国体開会式典演技振付総合監修。群馬大学非常勤講師。愛猫家。

2018年度「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」

【実施校】行田市立南河原中学校

【対象】1年生男女29人

【講師】藤田善宏（振付家・ダンサー）

（酒井大輝：アシスタント）

2018年度

MEET THE DANCE

～アーティストが学校にやってくる！

文 ● 川添史子 Photo ● mairon2019

皆と一緒に楽しみながら踊れて絆が深まりました。
このダンスのイメージは「自由」を意味しているのかなと思いました。

ダンスが嫌いだったけど、踊れてくると楽しくなってきて、
もう少し踊りたいと思うような授業でした。

あまりダンスとは関わることもなく生活しているので、楽しく活動することができました。
部活の動きや、起立、気をつけ、礼など、
日々、普通にやっていることをダンスに取り入れるのは面白いなと思いました。
ダンスを本格的にやりたい!と思うようになりました。



——今日は、安田さんが普段書のワークショップでやられていることを近藤さんが体験。一人が目をつぶって、もう一人の指示に従いながら文字を書いていくのは、ゲームのようで盛り上がりましたね！

安田 あれはスイカ割りや福笑いと一緒に、指示も大切なんですよね。人に言葉で何かを伝えるって、なかなか大変なことじゃないですか。信頼感も重要だし、受け手の想像力も試される。

近藤 目をつぶって文字を書くの、新しい感覚で面白かった！ 僕もワークショッ

プで、一人が目隠しをしてもう一人が動きの指示を出すゲームみたいなのを試すけど「ぐるっと回って」と言っても、人によって“回る”の認識って微妙に違うじゃない？動きの回答や捉え方で個人差が生まれて、いろいろと興味深いんですよ。

安田 全然違いますよね。僕一人で、目隠しした人10人に指示するなんてことも試すんですけど、全員、出来上がる文字が違いますし。

近藤 なるほどね〜。また墨って、一回しか書けないからね。消しゴムで消せない、

取り返しがつかない面白さもある。

安田 そうなんですよ！ だから僕の生き方と、すごく合ってる(笑)。

近藤 あ〜それ、すごく伝わってくるよ(笑)。でも今日改めて思ったけど、ダンスと書の親和性は、もっともっと追ってみたい気がしたね。

安田 何年か前に、近藤さんと一緒に書とダンスのワークショップをやったこともありましたしね。

近藤 そうそう、あれ面白かった。「線が いいね」っていうのと「動きがいいね」って

近い気がするんだよ。この間、笠井観^{あきら}さんの振付作品を踊る機会があったんだけど、空間の中で笠井さんがぐわーって動いて「できた、これやってみて」って稽古場で言われるわけ。そんな観さんの線なんて、こちらにはそう簡単には描けないわけですよ。でも観さんの導線みたいなものを僕なりに再現しようと努力はするし、そこに僕の個性も出たりして、これって習字でお手本の文字を真似するのに近い感覚があるんだよね。

安田 僕も時々「隣の人が書いた名前の文字を、完コピしてみてください」という課題を出すんですけど「この人はここを細く書くんだ」「人の文字だと大切に書きたくなるな」とか、いろんな発見があって面白い。これも人の振付を再現することと近いかもしれませんね。

いざ、墨入れ

——最後にお二人が書いてくださった所信表明は、近藤さんが「風有」、安田さんが「晴れと雨の境界線」でした。

近藤 半紙に向かうと前向きなことを書きたくなるよね。これって子どもの名前をつけるのと近い心理なのかな？(笑)

「風有」は造語だけど、今の気分をそのまま書いてみました。風は掴めそうで掴めなくて、乗ることもできるし追うこともできる。「冒険家になりたい」みたいな意味を込めました。

安田 僕も近い気持ちかも。「楽しそうだな」と思うものを探しにいく……みたいな思いを表現してみました。外から眺めるだけでなく、『トム・ソーヤーの冒険』のように、何に対してもちゃんと近くまで行って楽しみたいと思いますね。

——最後に近藤さんから、春の新作の構想について教えていただけますか？

近藤 新元号になって、新しい時代が来ることを素直に期待感として受け止めたいと思ったんです。「よし頑張ろう！」という気持ちというか。みんなで共有できるこのドキドキ感を、タイトルに込めてみました。あと個人的なことと言うと、中学生の時に初めて『Like a Virgin』を歌うマドンナを見たとき、昔の人がマリリン・モンローの登場に感じたであろうドキドキ感があったんだよね〜！(笑)「この歌は子どもが聞いちゃいけないやつ？」と、とにかく興奮したんだよ！あの感じが、作品のどこかに反映されるかもしれません(笑)。

チケット販売中

コンドルズ 埼玉公演2019新作
『Like a Virgin』

5.11(土) 14:00 / 19:00、12(日) 15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[構成・映像・振付] 近藤良平 [出演] コンドルズ

チケット(税込) 一般 前売S席5,000円 A席3,500円

U-25* 前売S席3,000円 A席2,000円

メンバーズ 前売S席4,500円 A席3,200円

*当日券は各席種とも+500円

*A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見えない場合がございます。

*5.11(土) 14:00公演を除き、未就学児の入場はご遠慮ください。

(有料託児サービスあり。要事前予約。)

*未就学児チケットは枚数限定。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

コンドルズ 埼玉公演2019新作 ライク・ア・ヴァージン Like a Virgin

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子

ダンスと書の、
近しいカンケイ

近藤良平 × 安田有吾
コンドルズ・メンバー、書楽家

コンドルズ主宰・振付家



安田有吾
Yugo Yasuda

書楽家として、映画・舞台・商品の題字などの揮毫や筆文字を使ったデザインの仕事で活躍中。地元神楽坂をはじめ様々な場所で書のワークショップ「書楽家時間」を開催中。また、茶道を教える家に生まれ、茶道師範の顔をあわせ持つ。2012年よりコンドルズ参戦。コミュニケーション能力の高さが売り。
<http://www.shogakuka.com/>

近藤良平
Ryohei Kondo

ヘルー、チリ、アルゼンチン育ち。「コンドルズ」主宰。NHK『サラリーマンNEO』、『からだであそぼ』などに振演出演。同『てっぱん』オープニングの振付も。立教大学などで非常勤講師も務める。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回横浜文化賞受賞。2019年NHK大河ドラマ『いだてん』ダンス指導。



コンドルズ
CONDORS

男性のみで結成されたダンスカンパニー。舞台衣装は学ラン。ダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを大胆に展開するジャンル横断的な手法で、独自の世界観溢れる舞台を創り出す。国内はもとより、これまでに世界約30カ国で公演。ダンスだけでなく演劇、TV、ラジオ、映画への出演・振付も多数。2016年に結成20周年を迎え、NHKホールで2日間の単独公演を行った。日本の舞台芸術界で異彩を放つ注目のダンス・グループ。



安田氏が普段ワークショップでやっている課題に取り組む。鏡文字に挑みながら、話題は舞台における「見る」「見られる」の関係性の話に……。



書を眺めつつ本日を振り返るお二人。

ディミトリス・パパイオアヌー Interview

知性、哲学、エモーション、セクシュアリティ……
 少しだけ危険な時間の彫刻

ディミトリス・パパイオアヌー 『THE GREAT TAMER』

現在の国際的なアートシーンで最も注目を集める、ディミトリス・パパイオアヌーがついに初来日。
 2017年の初演以来世界各地で話題を呼び続ける『THE GREAT TAMER』について、
 またアーティスト人生について語ってもらった。

文 ● 岡見さえ (舞踊評論家) Photo ● Julian Mommert

——アテネの出身で、最初は美術学校で画家になる勉強をしていたと伺いました。

はい。小さな頃から絵が得意で、16歳で画家になると決心してギリシャで非常に重要な画家、ヤニス・ツァロウチス(1910年～1989年)に教えを請いました。その後、アテネの美術学校に入り、学生時代にダンスに出会ったのです。

——どんなきっかけですか？

ギリシャで実験的なダンスカンパニーを主宰していた女性に会い、彼女のクラスに誘われたのです。彼女はパフォーマンスだけでなく、舞台美術や衣裳、メイク、照明を担当する機会も与えてくれました。そして22歳で、絵画と複合したパフォーマンスを自分で作り始めました。

——『THE GREAT TAMER』もハイブリッドな舞台作品です。この作品であなたは「振付家」を名乗っていませんが、自作をどう位置づけていますか？

この作品では、「コンセプト、ヴィジュアル構成、演出」担当です。私にとって、作品の演出は振付に相当するので。私の作品はコンテンポラリーダンスの中心ではなく、エッジに位置していると思います。でもカテゴリー分けは重要ではなく、作品が観客の感情と知性に働きかけるかが私にとって問題です。

——『THE GREAT TAMER』を観て、時間の概念が非常に独特で美しく感じました。限定された舞台空間に、個人の時間と数千年にわたる歴史が同時性をもって存在し、重なり合います。

嬉しいですね。私は自分の作品を、時間の彫刻にしたいと考えています。時間を彫刻したい。美しいイメージを作ることは容易ですが、時間が経過しても他と影響し合い



ディミトリス・パパイオアヌー (演出・振付家)

Dimitris Papaioannou

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を開始。NYでダンスを学び、1986年にエダフォス・ダンス・シアターを設立。以後フィジカル・シアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年開催のアテネ五輪では開閉会式を演出。『PRIMAL MATTER』(2012年初演)、『STILL LIFE』(2014年初演)でヨーロッパ、南米、アジア、オーストラリアで大規模なツアーを行う。また、2018年5月には独グッパタル舞踊団の委嘱により、同舞踊団に『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。



チケット販売中

ディミトリス・パパイオアヌー

『THE GREAT TAMER』

6.28(金) 19:00、29(土) 15:00、30(日) 15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[コンセプト・ビジュアル・演出] ディミトリス・パパイオアヌー

チケット(税込) 一般 前売S席6,500円 A席4,000円

U-25* 前売S席3,500円 A席2,000円

メンバーズ 前売S席6,000円 A席3,600円

※当日券は各席種とも+500円

※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見えない場合がございます。予めご了承ください。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

※28日(金)終演後、ディミトリス・パパイオアヌーによるポストパフォーマンストークあり。

※前号より公演日程が追加となりました。

つつ、それ自体が美しいイメージを放つ存在を作ることは、容易ではありません。私はダンス、身体、観念を時間の中に置き、時の経過の試練を与えるのです。

——時間の彫刻を創るとは、付け加えるよりむしろ削ぎ落とす仕事ですか？

研ぎ澄ませ、さらに滑らかにしていきます。宗教彫刻のように滑らかに、可能な限りクリアなフォルムを作る。そして性的に、政治的に、知的に、哲学的に、感情的に、少しでも危険になるように。礼儀正しく穏やかでも、安全ではいたくないのです。

——挑発でしょうか？

挑発とは違います。腫の中の炎、その煌めきが欲しいのです。

古典芸術を否定しない 現代アーティスト

——この作品では、西欧芸術の名作の身体イメージの使用も特徴的です。

ルネッサンス、表現主義、シュルレアリスムも使っています。元は画家なので、私の頭の中には百科事典的に芸術における人間の身体の歴史が入っている。だから生きている身体を扱うと、イメージが湧いてきます。もし何かマンテーニャのキリストに似ていたら、私は否定せずに肯定する。視覚的な連想で遊びたいのです。私が受け継いだ遺産、西欧文化の歴史に関する、一種のコミュニケーションの遊びですね。ギリシャ人である私は、西欧文化の中心にいるのですから。

——先端的な芸術はしばしば過去を否定しますが、あなたは逆ですね。

私は、古典芸術を否定しない現代アーティストであらうとしています。現代に生

きているので同時代の作品を作っていますが、古典を心から愛しているのです。分断ではなく、古典芸術を再発見したい。でもノスタルジーに浸るのではなく、記憶の中の断片から、新たな意味と調和の感覚をつかみ取りたいのです。

——過去の芸術の身体イメージが現代のダンサーと重なるとき、身体性の違いあるいは相似を感じますか？

同じことです。そこに私は、いつも同じ、奇妙で美しい動物を見出すのです。

——10人の出演ダンサーのプロフィールを教えてください。

全員がギリシャ人です。俳優が4人、ダンサーが5人、ストリートダンスのダンサーが1人。4人は前の作品でも一緒に仕事をしました。長身で細身の男性がヒップホップ出身で、舞台作品に初めて出演します。

——音楽は『美しく青きドナウ』を使っていますが、この選択の理由は？

世界一ありふれた楽曲だから……。一種の皮肉です。曲を減速し、時間が引き伸ばされますが、その続きはみんな知っている。このテンションを面白く感じました。死に対する省察であるこの作品に、この音楽は微かなユーモアも付け加えてくれます。

——ついにあなたの作品を日本で観られるのが楽しみです。来日は初めてですか？

プライベートも含め、日本は初めてです。尊敬するアーティストも多く、20代の頃にNYで田中泯さんのワークショップを通して舞踏にも関心を持ちました。実際に日本に行くのを、心から楽しみにしています。

(2019年3月5日 仏・リヨンにて)

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！ Vol.8

萩原麻未 Interview

来年でデビュー10周年
ラテンの作品で魅せる
新たな境地

気鋭のピアニストたちが意欲的なプログラムに挑む、大好評のシリーズ「ピアノ・エトワール・シリーズ」。これまでの出演者の中から「また聴きたい!」というお客様からのリクエストにお応えする「アンコール!」に萩原麻未が登場する。ジュネーヴ国際コンクール・ピアノ部門で日本人初の優勝に輝き、鮮烈なデビューを果たしてから来年で10年を迎える萩原が今思うこと、そしてユニークなプログラムの聞きどころを語る!

取材・文 ● 飯田有抄 (音楽ライター)

萩原麻未
(ピアノ)

Mami Hagiwara

2010年第65回ジュネーヴ国際コンクール〈ピアノ部門〉において、日本人として初めて優勝。広島県出身。第27回バルマードロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位。広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院及び同音楽院修士課程、パリ地方音楽院室内楽科、モーツァルテウム音楽院を卒業。日本、フランスを中心に、スイス、ドイツ、イタリア、ベトナムなどでソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行っている。これまでに、スイス・ロマン管、南ドイツ放送響など国内外における主要オーケストラとも多数共演を重ねているほか、フランスのラ・ロック・ダンテロン等の様々な音楽祭に招かれている。

Photo©Marco Borggreve

チケット販売中

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！Vol.8

萩原麻未 ピアノ・リサイタル

6.16(日)15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目]ショパン：《ワルツ集》より

ラヴェル：ラ・ヴァルス

ピアノラ：アディオス・ノニーノ

モンボウ：《歌と踊り》より

ヒナステラ：アルゼンチン舞曲集

チケット(税込) 一般 正面席 3,500円 バルコニー席 2,500円

U-25*(バルコニー席対象)1,000円 メンバーズ 正面席3,200円

※バルコニー席(U-25)残席僅少

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

チケット販売中【ピアノ・エトワール・シリーズ 3公演セット券】 詳細はP21

化こそが、彼女の魅力のひとつだ。

モンボウを軸に組んだ
「踊り」のプログラム

さて、今回のプログラムは5名の作曲家によるヴァラエティにとんだ曲目が並ぶが、「踊り」をひとつのテーマに置かれていることがわかる。5年前にも演奏したラヴェルの《ラ・ヴァルス》、ショパンの《ワルツ集》からの抜粋と並べて、モンボウ、ヒナステラ、ピアノラの作品を取り上げる。

「曲目として最初に思い浮かんだのは、スペインの作曲家モンボウの《歌と踊り》でした。この曲集は随分前にミケランジェリさんの録音を聴いて知り、とても感動しました。どこまでも温かく、優しく、そしてどこか懐かしく親しみやすい雰囲気があって。15曲からなる作品なので、いくつかを選んで、いろんな魅力を伝えることができたと思っています。まずはこの作品を基準に、ほかのプログラムを決めていった感じです」

アルゼンチンの作曲家ヒナステラの《アルゼンチン舞曲集》もユニークな選曲だ。

「3曲から構成されていますが、1曲ずつは2分前後の短い作品で、民族色の強いとてもおもしろい作品です。1曲目の〈年老いた牛飼いの踊り〉では、右手は調号なし、左手は5つで不思議な響きとリズムに惹きつけられます。最後にギターの開弦の音、ミ ラ レ ソ シ ミ が響くのですが、ギター2台で演奏されることもあるようです。2曲目の〈粹な娘の踊り〉は上品で粋、優雅さ溢れるメロディとハーモニーのなかに、妖艶さも秘めているような素敵

な曲。3曲目の〈はぐれ者ガウチョの踊り〉ではアルゼンチンの民俗舞曲のリズムが使われていて、爽快な疾走感と、最後は華やかなグリッサンドが待っています」

ピアノ1台で迫る
ピアノの世界

ピアノラの名曲《アディオス・ノニーノ》では、クラシック音楽とはまた一味違った、萩原の幅の広いリズム感覚や歌心を披露してくれそうだ。

「私はジャズやボサノヴァも好きで、普段からよく聴いているんです。《アディオス・ノニーノ》はピアノラ自身が、『この曲以上に良い曲はもう書けないと思う』と話していたそうです。父親が亡くなったとき、アルゼンチンに帰る旅費がなく、失意のなかで書き上げて父に捧げたという曲です。優しくドラマティックなメロディとタンゴが交互に現れます。ももとの編成はバンドネオン、ヴァイオリン、ピアノ、エレキギター、コントラバス。ピアノ1台でどこまで近づけるか、挑戦ではありますが、新しい世界を知ることにはいつもワクワクします」

来年にはデビュー10周年という節目を迎える。今後取り組んでみたいこと、継続していきたいことは？

「もう10年！ 時が過ぎるのはあっという間ですね。今までレコーディングには苦手意識があり、ほとんど録音していなかったのですが、近い将来ソロのレコーディングをしたいなと考えています。また、長い人生、少し空白の時間も大切にしたいですね。ゆっくりと毎日を過ごすことも大事にしていきたいなと思っています」

5年間で変わったこと
変わらないこと

萩原麻未が新進気鋭のピアニストとして「ピアノ・エトワール・シリーズ」に登場したのは2014年。フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルらのフランスの作品を取り上げ、芳しい余韻を残した。あれから5年。「アンコール!」シリーズにて再び登場する。

「彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールの響きは本当に素晴らしく、感動しながら演奏することができたことを覚えています。素敵な内装も印象的でした。そしてお客様の温かな雰囲気。『また聴きたい』と思っていただけることは、奏者にとってやっぱり一番の幸せで、本当にありがたい



稽古場の熱気伝わるトークが繰り広げられた

彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾 『ヘンリー五世』 関連イベントレポート

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 横山将勝 (イベント写真)

彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』の初日を前にした1月19日、出演者たちによるスペシャルトークイベントが開催された。登壇者は、シリーズの芸術監督で俳優・演出家の吉田鋼太郎と、主役を演じる松坂桃李。白熱の稽古の様子、シェイクスピア作品の面白さや難しさ、役づくりについて、『ヘンリー四世』や蜷川幸雄の稽古場の思い出など、多岐にわたってトークを繰り広げた。吉田は松坂の演技について「近年の桃李くんの獅子奮迅ぶりには目を見張るものがある。壁を越えるのが好きな人」と語り、その魅力を熱弁。今回初めて吉田演出を受けた松坂は「役者として接するのとは違う緊張感がある」と話した。

トークの途中では、出演者である溝端淳平と横田栄司も加わり、お互いの印象や作品の魅力、今回の上演の見どころなどを和気あいあいと語り合い、大盛り上がり！観客からの質問も受け、挙手した人のところへ溝端がマイクを自ら届けにいく大サービスの場面も。演出の核心に触れるような鋭い質問も飛び、作品への関心の高さも感じられた。

最後はそれぞれが意気込みを語り、吉田が「シェイクスピアは大衆演劇。面白いと思っていただけるような作品をお見せしたい」と挨拶すると、客席は大きな拍手で応えた。

彩の国シェイクスピア講座 Vol.2 『ヘンリー五世』徹底勉強会 開催しました！

前作『アテネのタイモン』でも開催された関連イベント「彩の国シェイクスピア講座」が、今年度は『ヘンリー五世』をテーマに、全5回にわたり映像ホールにて行われた。

河合祥一郎をコーディネーターに迎えた本講座の目的は、シェイクスピア作品をさまざまな角度から掘り下げ、新しい魅力を発見すること。北村紗衣、井出新、米谷郁子、松岡和子といった講師陣が勉強会を開講した。各講座では、作品の概要や歴史をはじめ、戯曲の持つ現代性なども解説。参加者からは、「物語の新しい側面を知ることができ、とても有意義でした」「国王や市民など視点を変えて、作品を観ると面白い発見ができそうです」など好評の声が多数寄せられた。



(左) 河合祥一郎 [進行]、(右) 松岡和子 [翻訳家] 第5回講座より

彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾 『ヘンリー八世』 2020年2月上演決定！

演出・出演：吉田鋼太郎 (彩の国シェイクスピア・シリーズ芸術監督)
主演：阿部 寛 ※詳細は決まり次第発表いたします。



Photo © 宮川舞子

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾

『ヘンリー五世』

2.8(金)～24(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

同シリーズ芸術監督・吉田鋼太郎による演出2作目。名君ヘンリー五世の成長物語を、見どころ多い娯楽作として仕上げた。冒頭、蜷川幸雄演出の『ヘンリー四世』で松坂桃李が演じたハル王子、吉田が演じた相棒フォルスタッフの友情を振り返る映像を流し、この関係が終幕につながる流れは感動的。本編では、“お国言葉”を使うなど日本の戦場にもつながる表現や迫力ある殺陣を見せ、血なまぐさい戦いや王の葛藤と、アドレナリンが噴出するような男くさいドラマが観客をひきつける。吉田演じる水先案内人のようなコーラスによって物語も躍動。「吉田鋼太郎一座」のような強力なチームワークで、パワフルな舞台が誕生した。



「つるのおんがえし」 Photo © matron2019

DANCE

子どもと大人のためのダンス

『日本昔ばなしのダンス』

2.23(土)・24(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

昔ばなしをダンスで表現するシリーズ最新作。山口夏絵振付『つるのおんがえし』は物語をコミカル&テンポよく運び、ノリのいい音楽に合わせてキレイキレイのダンスを披露。障子の向こうの鶴をシルエットのダンスで表現する場面も面白い。続いて、近藤良平振付作品。『かさじぞう』は、顔はめパネルでお地蔵様を表現するアイデアが秀逸。『てんぐのかくれみの』では、かくれみのを羽織ると姿が見えない彦……が見える設定のメガネが配布され、ちびっ子大興奮！(「外しても見えるよ～」とツッコミを入れる子どもに場内爆笑) “昔ばなしの登場人物ファッションショー”もあり、なんとも楽しい時間を過ごした。



Photo © 横田敦史

MUSIC

アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン
デュオ・リサイタル

2.17(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

演奏のたび深化する注目のデュオ、イブラギモヴァとティベルギアンが彩の国に初登場。ベートーヴェン《ヴァイオリン・ソナタ第3番》は一弓の長いフレーズの中で多様な表情を見せながら、優美に語るピアノに寄り添い、ベートーヴェンの初期作品の二重奏の理想のバランスを聴かせた。ヤナーチェク《ヴァイオリン・ソナタ》は丁々発止のやりとりで、濃密な響きによる緊張感みなぎる音楽が展開。ケーゲル《6つのメロディ》はノン・ヴィブラートの響きの中でイブラギモヴァの表情が冴える。シューマン《ヴァイオリン・ソナタ第2番》は自在な弓さばきによる深く重厚な響きで演奏。聳え立つ岩山の厳しさを描くような崇高な名演だった。



Photo © 加藤英弘

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第14回

清水和音 ピアノ・リサイタル

2.24(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

日本を代表するピアニスト清水和音の「次代へ伝えたい名曲」は4つの傑作。シューマン《こどもの情景》、ベートーヴェン《ピアノ・ソナタ第30番》での感情表出を抑えた演奏は「大切なのは、作品本来の姿を伝えること」と次世代に語るかのようだった。尾高惇忠《ピアノのためのバラード第1番》は色彩豊かな曲で、清水の透明感ある響きによく合う。リスト《ピアノ・ソナタ》は、繊細な響きから楽器を鳴らしきるダイナミズムまで、壮大なドラマを見せた。清水のリストの響きはラフマニノフをも思わせたが、アンコールはまさにラフマニノフ(E.ワイルド編)《こはすばらしい場所》。ピアノ音楽の系譜を堪能した演奏会となった。

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

	PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA
4月				
1月				1月
2火				2火
3水				3水
4木				4木
5金				5金
6土				6土
7日				7日
8月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			8月
9火				9火
10水				10水
11木				11木
12金				12金
13土				13土
14日				14日
15月				15月
16火				16火
17水	休館日(埼玉会館)			17水
18木				18木
19金				19金
20土				20土
21日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			21日
22月				22月
23火				23火
24水				24水
25木				25木
26金				26金
27土	27 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 古今亭志ん輔と 精鋭落語家特選会 小ホール 詳細はP.21		6 B.C.J音楽監督 鈴木雅明による 作品解説レクチャー 彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 13:00 ※お申込みは締め切りました	10 『輝ける人生』 映像ホール 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 / 18:00 10:30 / 14:30 詳細はP.21
28日				
29月・祝				
30火・休				
5月				
1水・祝				1水・祝
2木・休				2木・休
3金・祝				3金・祝
4土・祝				4土・祝
5日・祝				5日・祝
6月・休				6月・休
7火				7火
8水				8水
9木				9木
10金		11 12 コンドルズ 埼玉公演2019新作 『Like a Virgin』 大ホール 詳細はP.12-13		10金
11土				11土
12日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			12日
13月	休館日(埼玉会館)			13月
14火				14火
15水				15水
16木				16木
17金				17金
18土	18 『CITY』 大ホール 詳細はP.4-5		18 光の庭プロムナード・コンサート 第107回 ばらまつりスペシャル ～薔薇の香りを音楽にのせて～ 情報プラザ 14:00 [出演]大木麻理(オルガン)、加賀谷 翠(オーボエ) [曲目]作曲者不詳(アイルランド民謡):《夏のなごりの薔薇》 A. マルチェロ:オーボエ協奏曲 二短調 ほか ※入場無料 詳細はP.22	
19日				19日
20月				20月
21火				21火
22水				22水
23木				23木
24金				24金
25土				25土
26日	26 休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			26日
27月				27月
28火				28火
29水				29水
30木				30木
31金		31 マーク・モリス・ダンス・グループによる パーキンソン病患者のための ダンス・プログラム (シンポジウム) 映像ホール ※要申込 14:00～17:30 ※詳細は財団HP		31金
6月				
1土		1 マーク・モリス・ダンス・グループによる パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム (指導者向けワークショップ) 彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場 1 ※要申込 ※詳細は財団HP		1土
2日		2 9:30～18:30 9:30～18:30		2日
3月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			3月
4火	休館日(埼玉会館)			4火
5水	休館日(埼玉会館)			5水
6木				6木
7金				7金
8土				8土
9日				9日
10月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			10月
11火				11火
12水				12水
13木				13木
14金				14金
15土			14 埼玉会館 ランチャイム・コンサート第39回 イリーナ・メジャーエフ(ピアノ) 埼玉会館 大ホール 12:10(終了予定13:00) 詳細はP.21	15土

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

販売中
彩の国さいたま寄席 四季彩亭
古今亭志ん輔と精鋭落語家特選会
4.27(土) 14:00 小ホール
[出演] 古今亭志ん輔(ゲスト)、三遊亭鬼丸、林家つる子、立川吉笑
チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円
メンバーズ2,700円

販売中
『CITY』 詳細はP.4-5

発売日 一般 4.27(土) メンバーズ 4.20(土)

さいたまネクスT・シアター 世界最前線の演劇3
『朝のライラック』[ヨルダン／パレスチナ]
詳細はP.8-9

発売日 一般 4.27(土) メンバーズ 4.20(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家正蔵と若手落語家競演会
7.27(土) 14:00 小ホール
[出演] 林家正蔵(ゲスト) ほか
チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円
メンバーズ2,700円

発売日 一般 5.18(土) メンバーズ 5.11(土)

『めにみえない みににしたい』 4歳以上推奨
詳細はP.6

発売日 一般 5.18(土) メンバーズ 5.17(金)

2019年度公文協東コース
松竹大歌舞伎
松本幸四郎改め二代目松本白 鸚鵡名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎鸚鵡名披露
詳細はP.7

DANCE

販売中
コンドルズ 埼玉公演2019新作
『Like a Virgin』
詳細はP.12-13

販売中
ディミトリス・ババリオヌー
『THE GREAT TAMER』
詳細はP.14 -15

MUSIC

販売中
埼玉会館ランチャイム・コンサート第39回
イリーナ・メジャーエフ(ピアノ)
6.14(金) 12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
[曲目] ショパン: 幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66 (遺作) 英雄ボロネーズ 作品53
ドビュッシー: 《ベルガマスク組曲》より《月の光》 ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

販売中 [3公演セット券] [アンコール! Vol.8 1回券]
発売日 [Vol.37 1回券] 一般 6.15(土) メンバーズ 6.8(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.8 萩原麻未 詳細はP.14-17
Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン
Vol.38 ペアトリーチェ・ラナ
音楽ホール

【アンコール! Vol.8 萩原麻未】
6.16(日) 15:00
[曲目] ショパン: 《ワルツ集》より
ラヴェル: ラ・ヴァルス
ヒナステラ: アルゼンチン舞曲集 ほか
【Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン】
11.17(日) 15:00
[曲目] モーツァルト: 2台のピアノのためのソナタ 二長調 KV 448(375a)
ファジル・サイ: 夜 (4手)
ラヴェル: マ・メール・ロア (4手のための組曲)
ラ・ヴァルス (2台ピアノ) ほか

【Vol.38 ペアトリーチェ・ラナ】
2020年 3.8(日) 15:00
[曲目] J. S. バッハ: イタリア協奏曲 BWV 971
シューマン: ピアノ・ソナタ第3番 へ短調 作品14
アルベニス: 組曲《イベルリア》第3集
ストラヴィンスキー: 「ペトルーシユカ」からの3楽章
※78号においてVol.38公演日の記載に誤りがございました。
お詫びして訂正いたします。

チケット(税込)
【3公演セット券】一般・メンバーズ 正面席9,000円
バルコニー席7,500円 / U-25* (バルコニー席対象) 3,000円
【各回】一般 正面席3,500円 メンバーズ 正面席3,200円
バルコニー席2,500円 / U-25* (バルコニー席対象) 1,000円
アンコール! Vol.8 バルコニー席 (U-25) 残席僅少
※Vol.38 発売日 一般10月5日(土) メンバーズ9月28日(土)

次頁へ続く

MUSIC

販売中【2公演セット券】[Vol.2・1回券]

大塚直哉レクチャー・コンサート

オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”

音楽ホール

【Vol.2】「フーガ」の苦しみと喜び

7.7(日)14:00

【出演】大塚直哉（ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話）、若松夏美（バロック・ヴァイオリン）

【曲目】J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第11番から第17番、《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番》より第1・2楽章

【Vol.3】“平均律 wohltemperiert”の謎

2020年 2.2（日）14:00

【出演】大塚直哉（ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話）
【曲目】J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第18番から第24番

チケット(税込)

【2公演セット券】全席指定 一般・メンバーズ 3,600円

【Vols.2-3】各回 全席指定 一般・メンバーズ 2,000円

※Vol.3発売日 一般7月6日（土）メンバーズ6月29日（土）

販売中

佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団

10.5(土) 14:00 音楽ホール

【出演】佐藤俊介（ヴァイオリン／音楽監督）

オランダ・バッハ協会管弦楽団

アンネケ・ファン・ハーフテン／ピーテル・アフルティト（ヴァイオリン）、
フェムケ・ハウジンガ（ヴィオラ）、ルシア・スヴァルツ（チェロ）、
ベン・ゴールドソーベル（コントラバス）、ディエゴ・アレス（チェンバロ）、
ベニー・アガッシン（バスーン）、マルテン・ロート（フルート）、
エマ・ブラック／ヨン・チョン・シン（オーボエ）

【曲目】J. S. バッハ：管弦楽組曲 第1番 ハ長調 BWV 1066

ピゼンデル：ダンスの性格の模倣 ほか

チケット(税込) 一般 正面席 6,000円 バルコニー席 5,000円
U-25* 3,000円／メンバーズ 正面席 5,400円

発売日 一般 4.27(土) メンバーズ 4.20(土)

テアトル・ムジーク・インプロヴィーゾ

『うつくしいまち』

家族で楽しめる、

絵と音楽でつむぐパフォーマンス 3歳以上

8.4(日) 14:00 小ホール

【出演】ダリオ・モレッティ（美術）、野村誠（ピアノ）、やぶくみこ（打楽器）

チケット(税込) 全席指定

大人 2,500円 子ども(3歳以上12歳以下) 1,000円

※関連ワークショップ開催予定

発売日 一般 4.27(土) メンバーズ 4.20(土)

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン

9.28(土)15:00 音楽ホール

【出演】カール＝ハインツ・シュッツ（フルート）

ジョナサン・ケリー（オーボエ）

アンドレアス・オッテンザマー（クラリネット）

リヒャルト・ガラー（ファゴット）

シュテファン・ドール（ホルン）

【曲目】モーツァルト：歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》より ほか

チケット(税込) 全席指定 一般 5,000円 U-25* 2,500円

メンバーズ 一般 4,500円

発売日 一般 5.25(土) メンバーズ 5.18(土)

NHK交響楽団

下野竜也(指揮) 小山実稚恵(ピアノ)

11.2(土)16:00 埼玉会館 大ホール

【曲目】ヴェルディ：歌劇《運命の力》序曲

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

ムソルグスキー（ラヴェル編曲）：組曲「展覧会の絵」

チケット(税込) 一般 S席 6,500円 A席 5,500円 B席 4,500円

U-25* (B席対象) 2,000円

メンバーズ S席 6,000円 A席 5,100円 B席 4,200円

発売日 一般 6.2(日) メンバーズ 6.1(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第40回

菅原 潤とN響メンバーによるアンサンブル

9.10(火) 12:10(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

チケット(税込) 全席指定 1,000円

チケット購入方法

インターネット



埼玉県芸術文化振興財団

オンラインチケット

SAF オンラインチケット

で、発売初日 10:00 から

公演前日 23:59 まで

オンラインチケット

受付いたします。



【PC・携帯共通】

http://www.ticket.ne.jp/saf/

【メンバーズ】登録のご住所へ無料配送

【一般】【クレジットカード決済】

または【コンビニ支払い】

▶ コンビニ発券

※チケット代に加え、店頭発券手数料（チケット1枚につき120円）が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00（彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く）

※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

【メンバーズ】登録のご住所へ無料配送

【一般】【コンビニ支払い】▶ コンビニ発券

※チケット代に加え、店頭発券手数料（チケット1枚につき120円）が必要です。
※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代のほか配送料（配送1件につき400円）が必要です。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口（10:00～19:00）

で直接購入いただけます。電話予約したチケットの
引取もできます（メンバーズは登録のご住所への配送となります）。

※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

【メンバーズ】【口座引落】

【一般】【現金】または

【クレジットカード決済】

その場で

チケットを

お渡します。

※手数料は

かかりません。

「光の庭プロムナード・コンサート」×

「ばらまつり2019」

「光の庭プロムナード・コンサート」は、彩の国さいたま芸術劇場の自然光の降り注ぐ情報プラザで、ポジティブ・オルガン（小型のパイプオルガン）の音色を楽しむ40分間のコンサート。5月は、劇場から徒歩5分ほどの与野公園で開催される「ばらまつり」との同時開催です。今年も地域の薔薇愛好家の方が育てた美しい薔薇をバックにオルガンとオーボエのアンサンブルをお届けします。約170種、約3,000株もの美しい薔薇が咲き誇る「ばらまつり」とともにどうぞお楽しみください。

光の庭プロムナード・コンサート第107回

ばらまつりスペシャル

【日時】5月18日（土）14:00 ※入場無料・年齢制限なし

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ

【出演】大木麻理（オルガン）、加賀谷琴（オーボエ）

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場（音楽担当）

TEL.048-858-5506 ※休館日を除く10:00～19:00

「ばらまつり2019」

【日時】5月18日（土）・19日（日）9:00～17:00

【会場】与野公園（中央区本町西1丁目地内）

【お問合わせ】ばらまつり実行委員会

TEL.048-647-8339

平成30年度「彩の国落語大賞」は

林家たけ平に決定！

『彩の国さいたま寄席～四季彩亭』に出演した若手落語家のうち、年間でもっとも優れた演者に贈られる「彩の国落語大賞」。平成30年度の大賞受賞者は、2019年1月『柳亭市馬と新春若手落語会』にて、「宗論」を披露した林家たけ平に決定しました。3月12日に行われた表彰式では、「林家は受賞や表彰には縁の薄い一門なのですが、平成10年開始の彩の国落語大賞最初の実賞者は林家たい平師匠、平成最後は林家たけ平ということで、最初も林家で最後も林家でこれは埼玉との縁だったなと思います」と受賞の喜びを語りました。たけ平が2席を披露する『彩の国落語大賞受賞者の会』は2020年1月18日（土）に開催予定。詳細決まり次第発表いたします。どうぞお楽しみに！

菅原直樹氏が平成30年度（第69回）

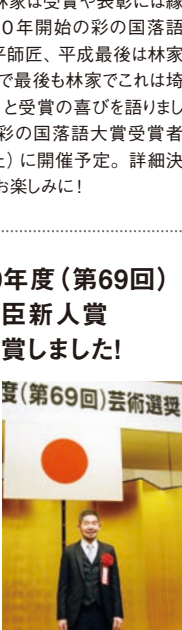
芸術選奨文部科学大臣新人賞

〈芸術振興部門〉を受賞しました！

昨年《世界ゴールデ祭2018》において、『徘徊演劇『よみちにひはくれない』浦和バージョン』の作・演出を手がけた菅原直樹氏が、平成30年度（第69回）芸術選奨文部科学大臣新人賞〈芸術振興部門〉を受賞しました。菅原氏が取り組む「老いと演劇のワークショップ」や『よみちにひはくれない』を含めた高齢社会の問題を取り扱った演劇作品の創作が、「創造性」による問題解決の方法として芸術文化の新領域を開拓し、今後の高い可能性を期待されての受賞となりました。



賞(第69回)芸術選奨



「みんなのオルガン講座」基本コース

第13期受講生募集！

講師：大塚直哉／大木麻理

彩の国さいたま芸術劇場では、小型で移動可能なパイプオルガン“ポジティブ・オルガン”が体験できる「みんなのオルガン講座」を2019年度も開講いたします。「基本コース」は、パイプオルガンの演奏基礎を学ぶコース。一流の講師陣が、わかりやすく、丁寧に解説・指導いたします。1年目ではオルガン・ソロ演奏を学び、修了者のうちご希望の方にはアンサンブル演奏を学ぶ2年目クラスにお進みいただく予定です。

♪基本コース

（定員10名程度、3～4人で1時間程度のグループレッスン）

【日時】

・オーディション 6月30日（日）13:30頃～

※終了時間未定

・レッスン 9月1日（日）ほか 計4回

・発表会 2020年2月23日（日）於：情報プラザ

【オーディション参加費】500円

【受講決定者：受講料】8,500円 ※テキスト代別

【申込締切】5月30日（木）必着

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場（音楽担当）

TEL.048-858-5506 ※休館日を除く10:00～19:00

※詳細は財団ホームページをご覧ください。

専用参加申込書の書式をダウンロードできます。



過去の講座の様子

【共催】第4回ピアノデュオ ドゥオール

創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場

―更なる発展へ向けて―

結成15年目を迎え、日本を代表するピアノデュオとして活躍の場を広げている、埼玉県在住のふたり「ピアノデュオ ドゥオール」が、ピアノ二重奏の日本での発展を促進すべく開催するセミナー。すでにピアノ二重奏に取り組んでいる人を対象にしたコース（デュオ組）と、これから2台ピアノによる二重奏に取り組んでみたいと考えている人を対象にしたコース（ドゥオール組）を設け、最終日には修了コンサートを開催します。

【日時】

8月28日（水）「デュオ組」によるオープニング・コンサート
デュオ組

8月29日（木）デュオ組／ドゥオール組

8月30日（金）デュオ組／ドゥオール組

8月31日（土）15時開演 修了コンサート

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【受講料】

A「デュオ組」おひとり30,000円

（デュオとして計60,000円）

B「ドゥオール組」おひとり10,000円

※別途、施設使用料の負担あり

※所定の用紙により要申込。6/30(日)必着

【8/28-30：レッスン聴講】 【8/31：修了コンサート】

〈1日券〉大人 1,500円

学生（高校生以上）1,000円／小中学生 500円

親子ペア券（保護者＋小中学生）1,500円

〈4日間通し券〉大人 4,500円

学生（高校生以上）3,000円／小中学生 1,000円

※1日券は、当該日のみ出入り自由。

※事前予約は不要です。当日受付で直接、料金をお支払いください。

（学生の方は受付で学生証をご提示ください。）

詳細はピアノデュオドゥオール公式ホームページをご覧ください。

http://www.yoshie-takashi.com/seminar.html

【お問合わせ】

ドゥオールセミナー in 彩の国さいたま芸術劇場係

seminar@yoshie-takashi.com

Tel・Fax 06-7501-9305

【ノースロードスタジオ／担当：長（おさ）】

サポーター会員

（公財）埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。

こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。（2019.3.15現在／一部未掲載）

㈱と野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー㈱／㈱タムロン／㈱十萬石ふくさや／森平舞台機構㈱
東芝エルティエエンジニアリング㈱／埼玉トヨタ自動車㈱／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルビーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル
㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国 S P グループ／㈱ブラネッツ／㈱デサン
セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通
サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱／旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房
㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱綜合舞台／（一財）さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／オーガスアリーナ㈱
イープラス／(医) 櫻会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医) 山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社／ショッパー
㈱松尾楽器商会／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／㈱川口自動車交通／㈱ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや／㈱杉田電機
丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄／㈱ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部／㈱平和自動車
光陽オリエントジャパン㈱／さくら Music Office／クワバラ・パンぷキン／東和アークス㈱／テレビ埼玉／日本ビストンリング㈱／金井大道具㈱
国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／㈱コマーム／㈱原一探偵事務所／川口信用金庫／青木信用金庫／㈱和幸楽器／大栄不動産㈱
相川宗一／㈱ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／AGS㈱／ウォータースタンド㈱／㈱ワイイーシーズンソリューションズ
白神久吉／医療法人青木会／むさし証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱／㈱シルバーデントタルラボラトリー／㈱エスポイント／藤信地所㈱
津田工業㈱／㈱積田電業社／ボートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／㈱東京コーン紙製作所／トヨタカローラ埼玉㈱／放送大学埼玉学習センター
GARO DAYHAPPY／㈱有村紙工／(医) たかだクリニック／SMBC 日興証券㈱／㈱アステック／㈱加藤工業／㈱ジェイコムさいたま／㈱ヤナセ

お問合わせ（公財）埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

速報！

さいたまダンス・ラボラトリvol.2 (2019)

夏期集中ワークショップ

彩の国さいたま芸術劇場では、2018年度シーズンからダンス表現の探求と作品創作を目的とする「さいたまダンス・ラボラトリ」プロジェクトが開始しました。第2弾は8月17日からの13日間、1日6時間の集中ワークショップを実施予定。本プロジェクトをリードする講師／ナビゲーターは前回に引き続きダンサー・振付家として世界を舞台に活躍する小尻健太と湯浅永麻。最終日には公開リハーサルも予定しています。

【日程】8月17日（土）～ 8月31日（土）

※休講日8/19(月)、26(月) ※ 8/31(土)公開リハーサル

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【定員】20名

【対象】15歳以上35歳未満のダンス経験者・中級以上

※原則、全日程参加できる方

※対象外の年齢の方は相談可、ダンスのジャンルは特に問いません。

【申込締切】6月30日（日）必着

タイムスケジュール・プログラム・参加費・応募方法など詳細は財団ホームページをご覧ください（4月半ば頃発表予定）。

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場（舞踊担当）

Tel.048-858-5506 Mail.workshop@saf.or.jp



2018年度の様子



はやしや・ひこいち

1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

芸人ならではの 「読み切り」公演

文と写真 ● 林家彦いち

「読み切り」。辞書によると「一回で完結すること」。

寄席の講談でも「これにて読み切りとさせていただきます」というフレーズを耳にする。実はもうひとつ楽屋言葉で「読み切り（公演）」なるものがあり、この場合、全く違う意味となる。仲間が病気や災害などにあった時、売り上げを全額その人に寄付するという公演。

初めて「読み切り」を体験したのは三十年程前の末廣亭。五代目春風亭柳朝師匠が病気で倒れ、開催された「柳朝読み切り公演」。僕は前座になったばかりの二十歳。柳朝師匠の師匠である八代目林家正蔵（後の林家彦六）一門の皆さんが大勢出演している。壮観だった。彦六師は僕にとって大師匠にあたる。

師匠から「売り上げは、全部病気の柳朝兄さんに渡すんだよ」と教わった。しみみりすると思ったら大間違い。楽屋では会計系の某師匠が「コレで明日、競馬で大穴狙いだ！」と叫んで笑っている。高座も失敗談や師匠に教わった噺などで大いにわいた。まだ右も左もわからない僕だったが、はっきり感覚として記憶しているのは「やってあげてる」という感じがなかったことだ。

数年前、後輩のニツ目*さんの家に泥棒が入って百万円盗まれたということを聞いて「読み切り」を行った。噂を聞いた芸人たちが「オレも行く」「オレも」と大勢集まった。楽屋もお客席も大入りで賑わった。高座では「ありゃ百万円は嘘だな」とか「女との手切れ金だ」なんて言われ放題。あっ、事



この日の売り上げがトシさんの手へ

実無根です。百万円には至らなかったが、丸ごと渡した。

会社勤めではなく、何の生活の保障もないこの世界だからこそ、始まったものかもしれない。芸人だから出来ることである。

先日漫才の「ホンキートンク」のトシさん（ハゲの方）の奥さんが癌になって、手術に多額のお金がかかることを聞いた我々は「読み切りやろう」となった。会場探し等、細かな事務作業も必要となってくる。幸いにも会場はフットワーク軽く応じてくれる経堂のコミュニティスペース「さばのゆ」に。出演者も次々と名乗りを上げてすぐに決定。

そしてトシさんもひとり芸を披露することに。芸名も「天草ヤスミ」と命名。覚悟を決めた男の姿があった。楽しいライブになりそうなので、隔月で続けることにした。癌が治るまでやるんだ。

「読み切り」なのだが「続き物公演」になったという！ 今回はこれまで。

※ニツ目：東京の噺家の階級のひとつ。前座→ニツ目→真打と上がっていく



演劇担当 @Play_SAF

舞踊担当 @Dance_SAF

音楽担当 @Music_SAF



Facebook

彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater

埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram

埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第80号（4月～5月）

平成31年4月1日発行（隔月1日発行）

発行人：竹内文則

発行：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500